

消費税10%とセットで改悪。経済的弱者に追い打ち、75歳以上低所得者 医療保険料3倍化。

10月1日から社会保障に関する制度改定が行われます。その中身をよくみると、経済的弱者に追い打ちをかける安倍政権の冷たい姿勢が浮かび上がります。

まず、75歳以上が加入する後期高齢者医療制度で、年金収入が年80万円以下の低所得者（約378万人）に対して保険料を9割軽減している特例措置を廃止します。本則の7割軽減に引き下げられ、保険料は3倍化。年額で平均1万3500円（20年度）に跳ね上がります。

代わりに「年金生活者支援給付金」の支給や介護保険料の軽減が行われますが、低所得者ほど負担が重い消費税増税とセットです。

年金支給の実質削減がすすみます

しかも、年金生活者支援給付金は、基礎年金（国民年金）の満額＝年78万円以下などの低所得者を対象として基礎年金の加入期間に応じて支給するため、同期間が10年の人は月1,250円、年15,000円しか受け取れません。60歳まで40年分を完納しても、基礎年金と合わせて最大で月約7万円だけです。そのうえ、政府は年金支給額の実質削減をすすめています。

介護保険料は制度創設時から2倍化の状況

介護保険料の軽減も低所得者が対象で、基礎年金満額のみが収入の単身世帯は月880円減となります。しか

し、保険料自体は右肩上がりです。現在の平均保険料は月5,869円で、制度創設時から2倍化。25年には月平均8,000円超に引き上げられる見込みです。

さらに、特例廃止には年金収入が年80万円超～168万円以下の約367万人も含まれます。多くが先述の給付金や介護保険料軽減の対象外のため、国は1年間だけ特例廃止の負担増分を補填（ほてん）しますが、保険料の定額部分は20年10月から2倍に跳ね上がります。

そもそも、政府が特例措置を設けざるをえなかったのは、高齢者の厳しい生活実態があるためです。いまでも75歳以上の1人あたり平均所得は年85万7千円（厚労省18年度調査）にすぎません。

貧困と格差が拡大、滞納者20万人超

一方で医療保険料の引き上げが繰り返され、滞納者は近年20万人以上で推移。有効期間が短い保険証にされた滞納者は2万人を超えています。医療にかかりづらくなれば重症化を招きます。痛みを強いられるのは現役世代も同様です。

国民の生存権を守る“最後の砦（とりで）”である生活保護も連続改悪しています。多くの改悪を進める安倍政権を今すぐ退陣させましょう。国が滅びる前に皆で声を上げましょう。

許せない消費税10%増税、減税・廃止運動のスタートを

消費税の31年の歴史は、「社会保障のため」でも、「財政危機打開のため」でもなく、大企業と富裕層の減税の「穴埋め」に使われました。10月から、75歳以上の医療保険料軽減特例の廃止、生活保護費の連続削減第2弾の発動が行われました。

消費税収は397兆円、法人3税の税収は298兆円減少

この31年間で消費税収は397兆円ですが、ほぼ同時期に法人3税の税収は298兆円減り、所得税・住民税の税収も275兆円減りました。さらに消費税は、貧困と格差の拡大に追い打ちをかけています。所得の少ない人ほど重くのしかかる逆進性、憲法25条に保障された生存権を脅かす悪税です。国民の暮らしと景気、中小企業の営業を壊し、日本を“経済成長できない国”にしてしまった大きな要因が消費税です。

消費税10%ストップネットワークの運動は全国に広がり、短期間で108万筆を超える署名が国会に届けられ



消費税10%ストップは短期間で108万筆超の署名が

ました。私たちは、「憲法9条と憲法25条を守れ」を高くかかげ、①安倍政権の改憲発議を許さない、②10月消費税10%増税ストップ、③社会保障制度の連続的な改悪をやめさせる運動をすすめてきています。市民と野党の共闘をいっそう前進させ、一刻も早く安倍政権を退陣に追い込む運動を大きくすすめていきましょう。

「第33回日本高齢者大会 in 福島」全国から3800人参加

甲府康健友の会 保坂勢津子

「みんなで築こう！憲法輝く原発ゼロの日本長寿とともに喜びあえる社会」のスローガンのもと、第33回日本高齢者大会が9月25～26日に開催され、山梨からは、年金者組合、健康友の会などから17名が参加しました。

今回の大会は、東日本大震災での原発事故から8年半となる福島での開催であることと、70周年を迎えた松川事件（1949年8月17日未明に東北本線で旅客列車が脱線転覆し、20名の労働者が逮捕され、14年後に全員無罪判決）の地で開催されたことの意義は大きいと思います。

憲法9条を守り、原発0へと政治変革を

記念講演は立命館大学国際平和ミュージアム名誉会長の安齋育郎氏が「原発事故から8年半、福島のげんじつと原発ゼロへの道」と題して話され、原発事故で原子炉に溶け落ちた核燃料（デブリ）の現状もわからず、取り出し作業の先が見えないと指摘。セシウム137の放射能が10分の1に減るのに100年かかり、帰宅、困難区域の帰宅困難性があるとして、「事態を侮らず、過度に恐れず、理性的に向き合おう」と語りました。

核兵器と原発開発の90年の歴史から見えるアメリカの日本に対する戦略的狙いは何か？そして福島の原発は「数世代先の子孫への負の遺産の押し付けで、何の恩恵もたらさない」という言葉にぞっとし、何も出来な



日本高齢者大会、全大会でのアピール行動

い（していない）自分に「何かしなければいけない」との危機感を抱かされました。

夜の企画は「松川事件70周年、松川事件を後世に残そう」の講座に参加。2日目は、「後期高齢者医療2割負担を許すな」と「生活保護をめぐる問題」に参加しました。

私はこの大会への参加を通じて、憲法9条を守り、年金削減などの高齢者いじめをやめさせ、原発ゼロ、自然エネルギーへの転換へと政治を変えていくエネルギーが充電できました。参加者の方の事故もなく安全に開催でき大いに学び、交流できた大会でした。

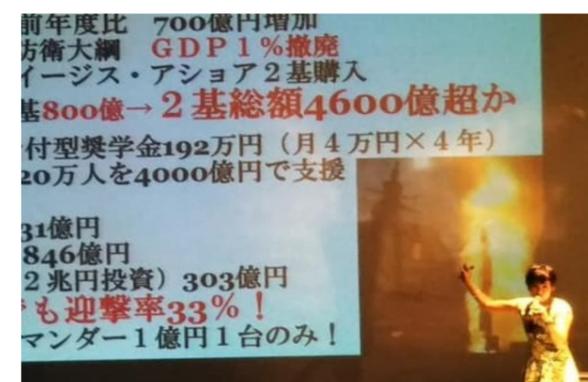
学べました、第62回山梨母親大会

日本共産党甲府市議会議員 木内直子

峡東地域の開催で40名の実行委員が準備してきた第62回山梨母親大会が9月29日（日）山梨市民会館において開催されました。

オープニングの笛吹高校生による「すいれき太鼓」の迫力に圧倒され、続く望月衣塑子さん（東京新聞記者）の記念講演に圧倒されました。

望月衣塑さんは今年6月に公開され話題となった映画「新聞記者」の原作者で、官邸会見で菅官房長官に粘り強く食い下がりが注目を集めた女性記者。全身を使って全力で訴える望月さんのお話に会場の全員が引き込まれた。徴用工問題・日韓問題から始まり、沖縄辺野



古埋め立てにおける赤土流出問題、記者会見での露骨な質問妨害、政権によるメディアへの圧力とメディア側の村度、膨らむ防衛費、すすむ日米一体化、憲法9条と日本の進むべき方向・・・濃い内容、難しい内容を、分かりやすくお話しいただきました。

メディアも踏ん張っています



望月衣塑子さんの著書

多くのテレビ・新聞が安倍政権に村度し国民に真実を伝えようとしない憂うべき状況にあって、望月さんなど一部の記者たちが「メディアの果たすべき役割は何なのか」と真摯に問いかけ踏ん張っている。私たちは政権側から垂れ流される情報に惑わされることなく、正しい情報を見極め判断していかなければならない。

午後は6つの分科会が開かれ、活発な討論が行われました。参加者400人。大成功の大会となりました。